



流域治水企画室

NEWS LETTER

第 11 号

Contents

- ・P1～2 佐賀市排水対策基本計画【第2回改訂版】策定 ～成富兵庫茂安の志～
- ・P3～4 矢部川シンポジウム2025開催 ～柳川の水管理システムのこれから～
- ・P5～6 流域治水(防災意識調査)に関するアンケート結果 ～5つのイベントで実施～



「流域治水企画室」は、「筑後川・矢部川流域治水プロジェクト」を応援しています。

https://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/ryuikichisui/index_city_resp.html

佐賀市排水対策基本計画【第2回改訂版】策定 ～成富兵庫茂安の志～

令和8年3月に佐賀市は「佐賀市排水対策基本計画」第2回改訂版を策定しました(図1)。

平成24年7月の大規模な浸水を契機に平成26年3月に「佐賀市排水対策基本計画」を策定し、国土交通省の施策である「100mm/h安心プラン」に九州で初めて登録され、ハード整備を加速させるなど市民を含めた市内のあらゆる関係者が治水対策を着実に進めると共に、河川の上下流の方々お互いに連携することで、浸水軽減効果が発揮されてきました。現在の流域に関わるあらゆる主体が協働して取り組む「流域治水」の取組を先取りした計画となっております。また、令和元年8月の豪雨を受け、少ない投資で高い浸水軽減効果を得られるよう見直しを行い、令和2年6月に改訂版を策定し、令和4年5月に「100mm/h安心プラン」に中期対策として2度目の登録がなされました。

今回の第2回改訂版は、近年の気候変動に伴う豪雨災害の激甚化が顕在化しつつあり、浸水被害軽減を図る対策の更なる強化の必要性から、気候変動対策として上乗せ対策を位置付けた内容となっております。新たに『流域治水の推進』を方針(浸水に強いまちづくり・ひとづくり)に追加し、既往計画の目標と併せて、新たに『まちの機能保全』を目標としています(図2)。具体的には、「気候変動により激甚化する降雨に対して、被害の軽減を図り、県都としての都市機能への影響を最小限に抑える(まちの機能保全)」です。

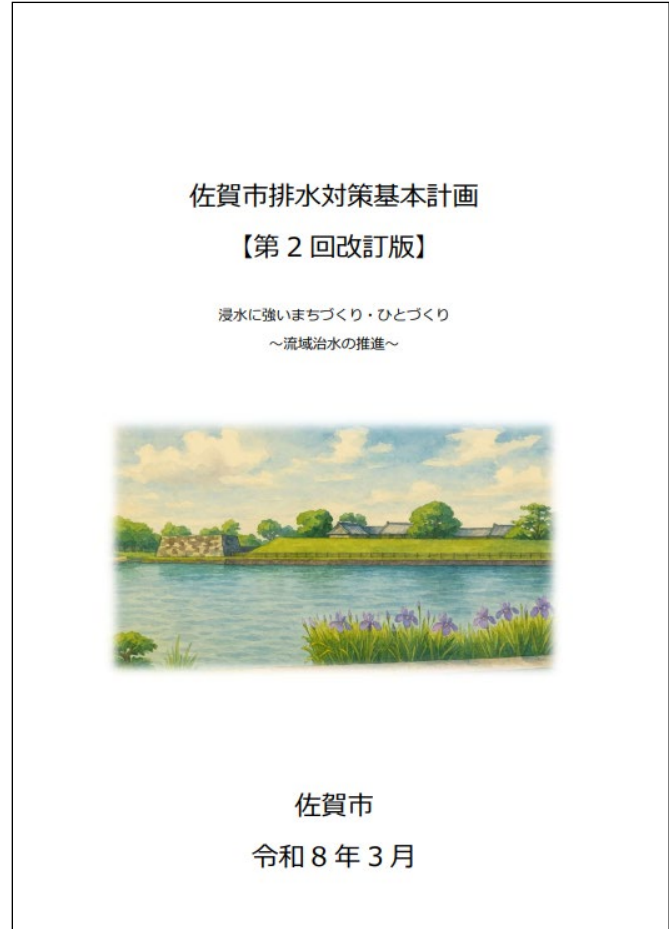


図1 佐賀市排水対策基本計画【第2回改訂版】

近年の気候変動に対応するため、佐賀市の浸水対策をアップデートします。

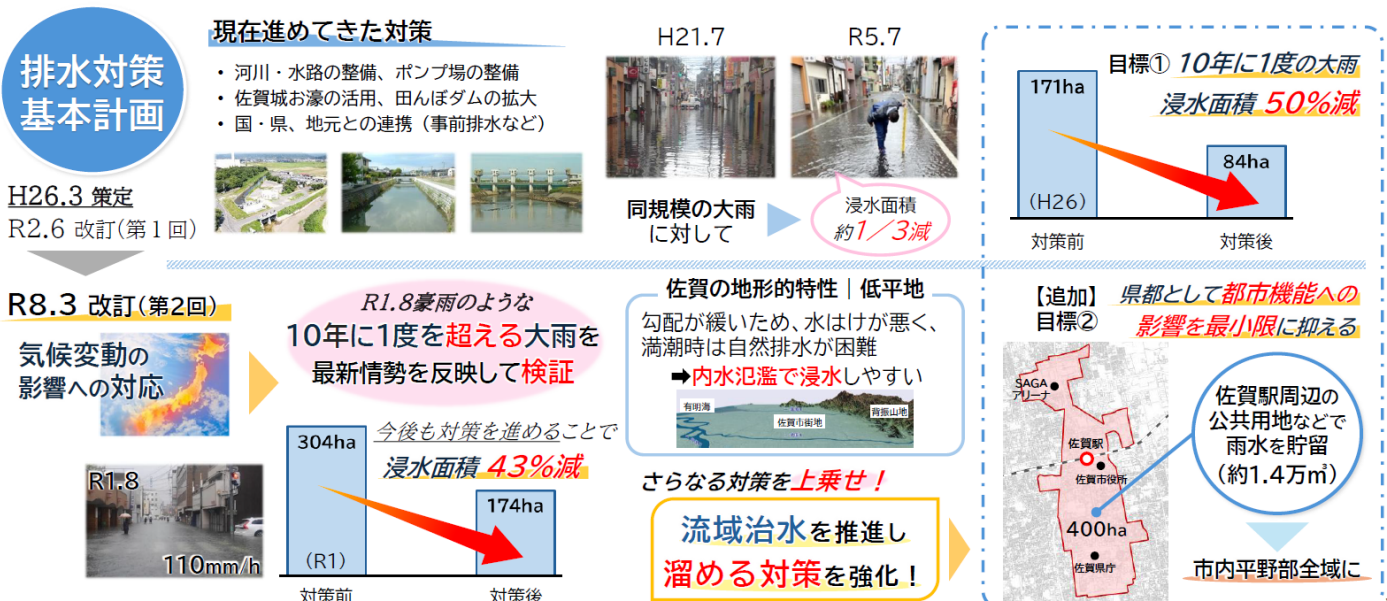


図2 佐賀市排水対策基本計画の策定・改訂の経緯と第2回改訂版の目標

佐賀市では、平成26年3月の排水対策基本計画策定以降、ポンプ場の整備や田んぼダムといった流域治水の取組を進めています。一方で、令和元年と令和3年に大雨特別警報が発令され、10年に一度を超えるような過去に経験のない時間雨量110mmの雨などが2回発生しております。

今回の第2回改訂版は、このような雨に対応するために従来の対策を継続して推進するとともに、気候変動対応として、新たに上乗せ対策を追加し、「溜める対策」の加速化・深化を進めることとしております。佐賀駅周辺や中央大通りの都市機能が麻痺する事態が発生していることを踏まえ、まずは、佐賀駅周辺拠点都市機能誘導区域を重点的に、浸水深や浸水面積、浸水継続時間を軽減する対策を推進していきます。具体的には、当該地区で公共用地等を活用し、14,000m³（令和元年8月豪雨を対象として長期対策後の都市機能誘導区域における床上浸水基準45cm以上の浸水ボリューム約27,000m³の5割を貯留することを想定）貯留するものとしております。

上乗せ対策の1つである「溜める対策」では、公園や運動施設、小中学校等の公共施設において、雨水を貯留し、河川や水路へ流出する量を抑制します（図3）。貯留方法は、周辺の浸水状況や地表面の利用状況を勘案して、表面貯留や地下貯留による整備を推進していきます。その他、調整池の機能向上として、既存調整池を掘下げて容量を拡大すること、公共施設だけでなく事業所・住宅などに雨水貯留タンクを設置することで敷地内から河川や水路へ流出する雨水の量を抑制すること、建物を嵩上げすることで、浸水被害を回避・軽減すること、建物の浸水対策として止水壁や止水板を設置し、周辺からの浸水や車の走行波から守る対策をすることを実施していきます。もちろん、現在進めている対策もさらに強化していきます。道路側溝や水路の堆積土砂や水草の撤去をすることで、流下能力や貯留能力を向上させて浸水リスクを低減させること、農業関係者と連携した農業用排水路等の事前排水による貯留容量の確保、田んぼダムを実施していきます。特に、佐賀城のお濠の調整池としての活用は全国初であり、起伏堰等の操作により水位調整を行っています。令和5年度からは、大雨に備えるため、事前にお濠の水を自然排水し、6月から9月末の期間お濠を低水位で管理することで、さらに調整容量を増やす取組を進め、約6万m³（25mプール190杯以上）の調整容量を確保することができました。さらなる強化として、ポンプを設置し、強制排水していくことを検討しています。

また、気候変動により激甚化する降雨に対して、よりいっそうの被害の軽減を図り、市民一人ひとりが水災害リスクを「自分事（じぶんごと）」として捉え、主体的な避難行動や防災行動をとって頂くことも重要であるため、情報発信も強化していきます。

今から、約400年前の近世初期に佐賀平野の洪水対策や水資源確保に尽力した成富兵庫茂安が構築し、その後も存続させて来た佐賀平野の治水・利水システムを活用した「溜める対策」の加速化・深化を図るとともに、まちづくりと一体となった対策の推進や、地域・個人の自主的な防災対策の支援を強化することで、あらゆる主体が一体となった継続的な取組を進めていきます。

上乗せ対策で浸水リスクを軽減し、未来に備えた“溜める力”を強化します。

**溜める
対策**



現在進めている対策もさらに強化！



現在進めている対策による 浸水軽減効果

浸水時間 9時間減 (11時間 → 2時間)
R1 対策後
浸水深 16cm減 (30cm → 14cm)

上乗せ対策でさらに底上げ！

一人ひとりが「自分事」として備えることが大切。佐賀市も情報発信を強化していきます。

図3 具体的な「溜める」対策と浸水低減効果

矢部川シンポジウム2025 ～柳川の水管理システムのこれから～

令和8年3月7日(土)に矢部川をつなぐ会、水の会、NPO有明会の主催で、柳川市城内コミュニティ防災センター(城内公民館)において、矢部川シンポジウム2025「柳川の水管理システムのこれから～水を”もたせ”る知恵が未来をひらく～」が開催されました(図1)。

矢部川シンポジウム 2025

柳川の水管理システムの これから～水を”もたせ”る知恵が 未来をひらく～

2026
3月7日
土

13:30-16:50
(13:00 開場)

矢部川水系の下流に位置する柳川市では、約 1,100 の水門をおよそ 700 名の方が管理しています。限られた水を上手に「もたせ」ながら活用するとともに、水害を最小限に抑えつつ生態系も守られていくことが求められています。

今回のシンポジウムでは、柳川の水管理のしくみや先行排水について研究されている新潟大学の吉川夏樹氏を講師にお招きし、さらに柳川の水路の歴史や水害を語っていただくゲストの方々とともに、「もたせ」システムをこれからも維持していく方策について話し合います。また、この「もたせ」システムは、水不足や洪水など水利・水害に悩む世界の地域にのっとても、持続可能な水管理のヒントにもなるものです。柳川の経験を通して、私たちが未来に向けてどのように水と関わり、守り、活かしていけるのかを一緒に考えていきたいと思います。

このシンポジウムを通して、柳川をはじめ矢部川流域に育まれてきた水文化を世界に誇れる大切な財産として見つめなおし、その魅力を発信するきっかけになれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。




会場 城内コミュニティ防災センター(城内公民館)
柳川市本町 53-1
※お車で訪れる方は柳川市役所北側駐車場をご利用下さい。

参加費 無料(要申込)

定員 80 名
▶参加申込方法は裏面をご覧ください。
▶後日 YouTube にて録画配信します。

主催 矢部川をつなぐ会、水の会、NPO 有明会
※この事業は国土交通省筑後川河川事務所「令和7年度矢部川防災要綱等開発委託事業」として実施します

基調講演
「柳川の水管理システムのこれから」
吉川 夏樹 氏 新潟大学農学部教授

話題提供・パネラー

兼富 賢蔵 氏 株式会社兼富鉄工所 社長
梅崎 秋敬 氏 柳川市産業経済部水路課課長
平野 幸二 氏 水の会
コーディネーター
島谷 幸宏 氏 熊本県立大学特別教授、大正大学客員教授、九州大学名誉教授

矢部川シンポジウム 2025

柳川の水管理システムの これから～水を”もたせ”る知恵が 未来をひらく～

※「もたせ」とは、指節を部分的に狭くしたり、構造物を重視することにより、平野の隅々まで水をいまいわたらせ、大雨の時など高潮時に排水ができない時間を、水路網で「もたせ」てし、海面が下がってから排水できる仕組みです。

日時 2026年3月7日(土)
13:30～16:50(13:00開場)

会場 城内コミュニティ防災センター(城内公民館) 柳川市本町 53-1
※お車で訪れる方は柳川市役所北側駐車場をご利用下さい。
※後日 YouTube にて録画配信します。視聴希望の方は申込フォームまたはメールにてお申込みください。

プログラム

13:30 開会

13:40 基調講演「柳川の水管理システムのこれから」
吉川 夏樹 氏 (新潟大学農学部教授)

14:30 休憩

14:45 パネルディスカッション

① 事例発表

- ・兼富 賢蔵 氏 (株式会社兼富鉄工所 社長)
- ・梅崎 秋敬 氏 (柳川市産業経済部水路課課長)
- ・平野 幸二 氏 (水の会)

② 全体討議
コーディネーター 島谷 幸宏 氏 (熊本県立大学特別教授、大正大学客員教授、九州大学名誉教授)

会場にて
流域治水や観測に関する
パネル展示を行います

16:50 閉会

基調講演 講師
吉川 夏樹 氏 新潟大学農学部教授
1970年東京都生まれ。東京大学大学院農学生命科学科博士課程修了。専門は農業水科学。新潟大学着任以来、田んぼダムの研究に従事。効果検証や装置開発のほか、取組推進のための仕組みづくりについて全国各地で発言している。近年力を入れている研究は、アジアモンスーン気候地域における水管理プラットフォームの開発、耕作放棄水田における水文環境の変化など。それ以外の主な研究は、水田における放射性セシウムの動態、排水の可視化、塩水堤の制御、超音波エコーを用いた水路内の魚類採集装置の開発など。

申込方法 申込フォームへのご入力、または以下を事務局までお知らせください。
1) 氏名 2) 連絡先(電話・メール) 3) 所属(あれば)
4) 現地見学会へのお申込み有無

お問合せ先 矢部川をつなぐ会事務局 (山村塾 小森研太)
〒834-1222 福岡県八女市黒木町笠原 9836-1
TEL・FAX: 0943-42-4300 Eメール: komori@sansonjuku.com

矢部川をつなぐ会
矢部川の自然景観を守り、文化を守る活動をしている地域の団体で、矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、平成17(2005)年11月に発足したネットワークです。
WEBサイト
<http://www.yabegawa.net/>

◆現地見学会…午前中に「もたせ」の見学会を開催します

日時 3月7日(土) 10:00～12:00
集合 9:45 城内コミュニティ防災センター(城内公民館)
内容 井堰や水門をマイクロバスで回り見学します。
定員・予約 先着20名、または3/2(月)に予約します。



お申込み
フォーム

図1 矢部川シンポジウム 2025 開催案内パンフレット

午前中は「水のゆくえ～矢部川下流部～」と題して現地見学会が開催されました。見学場所は、「ニツ川堰」、「磯鳥堰」、「白鳥地区幹線水路」、「二丁井堰」の4施設を見学しました。

ニツ川堰(写真1)は、矢部川水系沖端川上流から2番目に位置しており、柳川藩時代に農業用の堰として設置されました。この石積堰の大きさは、長さ44m、幅14mの大きさで、沖端川の水を石組水門(写真2)からニツ川に引水し、柳川市内の1,400haの農地の灌漑と生活用水に利用されているとのこと。水門は、昼夜問わず、きめ細かな操作を実施しているとのこと、沖端川の水を利用する地域の方の譲り合う精神が感じられます。また、柳川の観光の目玉で



写真1 ニツ川堰

ある川下りの水もここから引いているとのことでした。また、柳川市内にある民間会社が遠隔操作ができるよう施設を改良中とのことでした。このように、柳川藩時代に設置された石積と現在の最新技術が融合した二ツ川堰、はこれからも柳川にとって重要な施設であることがわかります。

磯鳥堰(写真3)も同じく柳川藩時代に築造されたと伝わっており、太田川への取水と柳川・三橋・大川地域のクリーク灌漑が目的とのことでした。平成24年九州北部豪雨で、沖端川流域で堤防決壊が発生し、柳川市全域が甚大な浸水被害が発生したのを契機に、固定堰から転倒堰に改築されました。併せて魚道も設置され、生物にも配慮された構造となっております。

白鳥地区幹線水路は、幹線水路の“横掘”であり、「もたせ」の絞り込みを確認することができます。水門4箇所を4人で管理しており、1ヶ月に少なくとも1回は操作しているとのこと。なお、環境省レッドリストである準絶滅危惧種であるアサザが自生しているのが確認できました。

二丁井堰は、柳川市街地や城濠を巡った水を干潮時に沖端川に排水するために設置されており、水門には逆流を防ぐためにゲートが設置されております。平成27年度から大雨が降る前に水路の水を排水する先行排水を、令和7年度から遠隔操作を実施しているとのことでした。



写真2 ニツ川堰左岸側にある石組水門



写真3 磯鳥堰(全景)

午後からは、田んぼダムを長年研究に、現在、柳川の水管理システムや先行排水について調査されている吉川新潟大学農学部教授の「柳川の水管理システムのこれから」と題した基調講演及び柳川市にある地元企業であるの乗富鉄工所の乗富賢蔵社長、柳川市産業経済部の梅崎秋敬水路課長から話題提供がありました。パネルディスカッションでは、熊本県立大学島谷幸宏特別教授をコーディネーターに、上記3名と水の会平野幸二氏で、柳川の水管理システムである「もたせ」を中心にディスカッションがなされました。

水を集中させることは良い治水とは言いがたく、江戸時代は水を溜めることをやっていたとのこと、水を速く流す技術と水をゆっくり流す技術のバランスが重要であるとのことでした。「もたせ」の幅をどうやって決めたのかなど色々と解明すべきことはまだまだありそうです。柳川で実施されている水管理システムは、この「もたせ」の考えを実施しており、水管理の分野では世界をリードしているとのことでした。

今回のパネルディスカッションは、産・学・官・民・自然の各分野から参加しており、5者連携モデルとして、非常に内容の充実したディスカッションでした。なお、「自然」の分野は、自然を大切にすることが持続可能な社会を継続していくために必要な視点という側面を持っているとのこと。

これからは、『共創の時代』であり、それぞれの人がなんらかの形で参加することが重要であるとのことでした。まさしく新しい時代にふさわしいパネルディスカッションであったと思います。

なお、本シンポジウムの動画は公開 (<https://youtu.be/MQqUcSHENnw?list=TLGGnT8y7DmcdLcxODAzMjAyNg>) されていますのでご興味のある方は是非ご覧下さい。

流域治水（防災意識）に関するアンケート結果 ～5つのイベントで実施～

筑後川河川事務所では、昨年（令和6年）10月6日、国営海の中道海浜公園（福岡市）で開催された「土木の日ファミリーフェスタ2024」で筑後川河川事務所ブース来訪者を対象に実施した流域治水（防災意識）に関するアンケートを実施しました。今年度は、「③土木の日ファミリーフェスタ2025」（写真6）に加え、引き続き、「①防災フェスタ」（写真4）、「②うきは大石かわまちフェスタ」（写真5）、「④ハロウィンパーティー」（写真6）、「⑤しまんマルシェ」（写真7）で実施しました。



写真4 ①防災フェスタ(2025.8.24)



写真5 ②うきは大石かわまちフェスタ(2025.9.28)



写真6 ③土木の日ファミリーフェスタ(2025.10.5)



写真7 ④ハロウィンパーティー(2025.10.25)



写真8 ⑤しまんマルシェ(2025.11.30)

各イベントの内容、場所、対象者、調査方法は表1のとおりです。

調査方法については、聞き取り+シール貼りを3イベント、アンケート調査を2イベントで実施しました。アンケート調査を依頼する際に、来訪者とコミュニケーションを取ることで、「流域治水(防災意識)」について、一般の方がどの程度認識しているのかを把握することができました。

回答数は、5イベントを合わせて約250名の方に回答を頂きました。

今回は、昨年度実施した土木の日ファミリーフェスタに加えて、流域の上・中・下流域において実施されたイベントに合わせて調査を実施しました。

表1 アンケート調査方法

イベント名 (実施年月日)	①防災フェスタ (2025.08.24)	②うきは大石かわまちフェスタ (2025.09.28)	③土木の日ファミリーフェスタ (2025.10.05)	④ハロウィンパーティー (2025.10.25)	⑤シマンマルシェ (2025.11.30)
イベント内容 (防災の有無)	浸水ドア (有り)	川遊び (無し)	災害対策車 (有り)	マルシェ (無し)	マルシェ (無し)
調査場所	三隈川 (大分県日田市)	大石地区 (福岡県うきは市)	海の中道海浜公園 (福岡県福岡市)	船小屋放水路 (福岡県筑後市・みやま市)	大野島ふれあいの家 (福岡県大川市)
	筑後川 上流	筑後川 中流	福岡県	矢部川 中流	筑後川 下流
調査対象者	日田市周辺の大人と子ども 防災フェスタとリバーフェスタ 来訪者	うきは市内の大人と小学生とフェスタ 来訪者	親(小学校3年生以下の子どもを持 つ来訪者)	マルシェ来訪者	大川市周辺の大人と小中学生 シマンマルシェ来訪者
調査方法	聞き取り+シール貼り	聞き取り+シール貼り	聞き取り+シール貼り	アンケート形式	アンケート形式
サンプル数	10	23	83	116	19

アンケート内容は、昨年度と同様、令和4年9月に内閣府が実施した防災に関する世論調査の調査項目のうち6項目について実施しました(表2)。

アンケート結果からは、下中流域より上流域の方が防災意識が高い傾向がありました(表2のQ1~Q6、①と②、④、⑤の比較)。また、防災系を主としたイベントで実施したアンケート結果では、他のイベントよりも防災に関する意識が高い傾向がありました(表2のQ1~Q6、①、③と②、④、⑤の比較)。また、概ね全国調査結果より防災意識が高い結果となりました。

今回、筑後川・矢部川流域を含めた大きなイベントにおいて、「流域治水(防災意識)」に関するアンケートを実施しましたので、一旦終了となります。今後は、例えば、5年後に同じアンケートを実施する、もしくは、内閣府のアンケート結果が新たに発表された段階で再度実施することを検討したいと思います。

表2 アンケート結果

質問内容	内閣府	①防災フェスタ (2025.08.24)	②うきは大石かわまちフェスタ (2025.09.28)	③土木の日ファミリーフェスタ (2025.10.05)	④ハロウィンパーティー (2025.10.25)	⑤シマンマルシェ (2025.11.30)
	2022	実施率(「はい」と回答した割合)				
Q1、自然災害への対処などを家族や身近な人と話し合ったことがある	61%	90%	74%	85%	66%	79%
Q2、台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている	77%	100%	96%	94%	74%	89%
Q3、食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している	41%	70%	65%	84%	64%	47%
Q4、近くの学校や公民館などの避難場所・避難経路を決めている	35%	90%	61%	79%	58%	58%
Q5、浸水しやすい地域など、危険な場所を確認している	30%	91%	83%	92%	66%	63%
Q6、特に対策は取っていない	10%	30%	13%	17%	40%	47%

お問い合わせ先

<流域治水企画室>

筑後川河川事務所

住所：福岡県久留米市高野1丁目2番1号

Tel:0942-33-9131

E-mail:qsr-chikugo-hp@mlit.go.jp



<水のたまり場> (筑後川河川事務所管内 各出張所)



大川出張所

住所：大川市大字向島2631-2

Tel：0944-86-2516



久留米出張所

住所：久留米市高野1丁目2-27

Tel：0942-32-7082



片ノ瀬出張所

住所：久留米市田主丸町菅原2461-5

Tel：0943-72-3204



吉井出張所

住所：うきは市吉井町橘田316-3

Tel：0943-75-2300



日田出張所

住所：大分県日田市中ノ島町608-14

Tel：0973-23-5291



矢部川出張所

住所：みやま市瀬高町上庄字松土居470

Tel：0944-63-2520



筑後川防災施設

「くるめウス」

住所：久留米市新合川1丁目1-3

Tel：0942-45-5042

筑後川に あそびきてね
Let's play together!

筑後川河川事務所のPR動画公開中
「あなたも久留米にくるっば」

九州地方整備局
YouTube

「流域治水」をより良い形で進めていくためには、情報共有が重要です。ふと目にした記事が、課題解決の大きな手がかりになるかもしれません。ニュースレターでは、小さなことも積極的に取り上げていきたいと考えています。これからも流域の皆様取材に伺いますので、ご協力よろしくお願いたします。